

看護教員の魅力とは？ 看護の未来をつくるシゴト

看護師養成所教員の魅力発信 第2回

神奈川県立平塚看護大学校
看護専門課程 地域・在宅看護論領域
看護教員 村山浩代さん

神奈川県立平塚看護大学校は、2017年に4年制の看護師基礎教育をスタートし、「時代の変化に対応できる自律して看護師として働くことのできる人材」の育成を目指している。

より質の高い看護実践へ看護教員を志す

看護教員の役割は、カリキュラムに沿って講義や演習・実習指導を行いながら、臨床現場で自らが体験した知識や技術、看護師としての心構えを伝え、次代を担う看護学生を育むことだ。同大学校の村山浩代さんは、前職である県立病院のICUで勤務をしていた9年間に、臨床現場でより質の高い看護実践を提供するためには何が必要なか、教育の立場から考えてみたいと思っていた。そこで、自ら上司に申し出て、看護実習指導者講習会に参加し、実習を受け入れている看護学生の教育に携わった。その後、上司から声を掛けてもらい、専任教員養成課程を受けて、現在の職場へと異動した。

専任教員養成課程を受講するまでは、何かを

教えることが教育だと思っていたという村山さん。「何かを教えるのではなく、学生が体験している世界を教員が見ていく」ことが教育だと気付いたという。学生の多様性を踏まえ、学生に応じた教育方法を学び、また、教員としての課題に直面しながら、乗り越えていく力を身に付けることができた振り返る。

学生の「看護が分かった」が一番のやりがい

教員として学生と接する中で、学生が初めて経験をすることに戸惑い、前に進めなくなっていると感じる時があるという。そのような時は、今、学生の中に起こっていることは何かに着目し、学生と共に一つ一つ課題をクリアしていく過程もこの仕事の魅力だと語る。また、村山さんは、学生の「看護が分かった」という表情を見る瞬間に、最もやりがいを感じるという。例えば、学生が自分で作成した看護計画を基に、受け持ち患者へ看護を実施した結果、患者のニーズに応じた看護ができたことと学生が実感する一瞬だ。「学生の顔がパッと明るくなる。そういう瞬間がたまらない。そして、こういう学生たちを大切に育てないといけないと思う。もちろん、学生とのやりとりはとても大変だが、その瞬間があるからやめられない」。

実習先で、卒業生が基礎教育の学びを大切にしながら、看護学生へ実習指導している姿も強く印象に残っている。成長した姿を目にすることが教育の醍醐味。人は可能性を持っていると実感する。

やりがいは、学生との関わりだけではない。同大学校を4年制化するために、カリキュラムの構

築に携わった。地域密着健康教育では、1年間、学生が定期的に保健福祉施設の利用者との関わりを踏まえ健康教育を行う。このように4年制は、十分な時間を掛け、教育できる良さがあると感じている。

今後の看護基礎教育をつくるには

教員の確保は恒常的な課題となっている。この課題について「臨床現場で教育に関心を持つような仕掛けが必要ではないか」と村山さんは指摘する。看護教育実践が大変であってもその先には喜び、やりがいがあることを伝え、一人でも多くの人に「教育は楽しい」ということを知ってほしいと願う。また、臨床においては、学生をチームの一員として迎え入れる姿勢を大切にしてほしい。現場の看護師が、学生に積極的に関わることで、未来の看護師を育てるといった魅力につながると考えるからだ。

看護教育は看護が必要とされる場所に、どのような看護が必要かを考え、つくり上げていくことが求められる。村山さんは今後も、変化する医療提供体制において看護がどのように動き、連携していくかを考え、実践できるような教育を行い、看護のあるべき姿、役割や機能を考え看護教育を展開できるよう取り組んでいきたいと意気込む。



村山浩代さん

【学校概要】開校：1972年、課程：医療専門課程、
修業年限：4年、総定員：320人